

第 2 回真田地域協議会 会議録

日 時 平成 18 年 11 月 7 日 (火) 午後 7 時から午後 9 時まで
会 場 真田地域自治センター 3 階 講堂
出席委員 飯島泰明委員、一本鎗武志委員、今井良明委員、上原和彦委員、大久保秀則委員、大久保芳美委員、大熊邦子委員、桑田まなみ委員、小金敏展委員、坂口恒子委員、佐藤和雄委員、佐藤博委員、清水悦子委員、清水潤委員、橋詰邦男委員、花岡静枝委員、宮崎正三委員、宮下蘭子委員、山崎隆喜委員、山崎壽夫委員
欠席委員 なし
市側出席者 小市センター長、センター全課長、原沢自治振興課長、渡辺センター次長兼地域振興課長、塚田係長、宮島主任

1 開会

(佐藤副会長)

第 1 回協議会欠席委員の自己紹介
- 配布資料の確認及び説明 -

2 会長あいさつ

(清水会長)

3 真田地域自治センター長あいさつ

(小市センター長)

4 協議事項

(1) 新生「上田市」建設計画の概要について

(原沢自治振興課長)

- 新生「上田市」建設計画(市町村建設計画)概要について説明(資料) -

(清水会長)

概要の説明がありましたので質問等ありましたらお願いします。

(委員)

総合計画について、いつ諮問され、いつまでに答申すればよいのか。

(原沢自治振興課長)

現在の予定ですと年内に諮問して、来年の 2・3 月には答申をいただきたい。

(委員)

当地域は、歴史・文化・自然など他にない魅力を持っているので、この地域の資源を活かすことが大切と考える。面積の約 70 パーセントを占める山林は荒れ放題といった状況と聞いている。雑木林の利用計画やクマやイノシシ対策といった山林に関わる課題が山積する。間伐材をチップ化して利用したらよいのではないか。

(原沢自治振興課長)

地域の特性を活かせるよう、協議会で議論していただき、答申していただきたい。

(委員)

総合計画の諮問に対して、種々雑多な意見が出てまとまらないと思う。環境・観光・農業などの問題を項目に分けて、集中的に審議しないと間に合わないのではないか。

(清水会長)

建設計画を具体化したものが協議会に諮問されてくるのか。それともこの建設計画をもとにして、協議会が意見を集約して答申をまとめていくのか。

(原沢自治振興課長)

地域の課題・特性を出していただくなかで、建設計画の中からいくつか絞っていただくのはどうか。時間的に厳しいという点については、確かに厳しい日程だと思う。現在、政策企画課で審議方法を検討している。

(委員)

課題を絞ってもらいたいとのことなので、各団体が抱えている問題を発表したなかで、課題をみつけていけばよいのではないか。

(原沢自治振興課長)

建設計画の53ページ、真田地域の地域別整備方針をベースに地域の総合計画が策定されます。諮問内容によりますが、表現を変える・特色的な新しいものを入れる・見直すといったスタンスで検討していただければと考えています。

(委員)

この建設計画は、合併協で相当に練り上げられたものだと思う。当然、旧真田町職員、自治センターのみなさんは策定に関わっていて、内容についてはある一定のモノサシは出来上がっているのではないかと感じる。真田地域の地域別整備方針へ私達が付加をつけるという考え方でよいのか。または、計画にとらわれずに審議していけば良いのかを聞きたい。

(原沢自治振興課長)

建設計画の地域別整備方針をベースに、みなさんのご意見等をお聞ききしながら諮問に対して付加をつけていくという考え方でよいと思う。

(清水会長)

各委員(地域)が持っている悩み等と今回出される総合計画の諮問への回答は、別に考えたほうが良いのか。

(原沢自治振興課長)

各委員(地域)が持っている悩み等が地域の重要な課題とするならば、総合計画の諮問に対する答申に盛り込むことも考えられる。

(清水会長)

建設計画に付加していくという考え方よりも、これをいかに地域協議会が「具体化」することが大事だと思う。

例えば、“住んでいて良かった”とするキャッチフレーズに対して、具体的に協議会は何ができるのか。

委員を引き受けたとき、除雪の優先箇所や融雪剤をどこに配るとかといったことは、今までどおり区長が自治センターにお願いに行けばよいとすると、地域協議会は何をすればいいのかと思った。どこを狙って地域協議会をやっている

くかをしっかり決めておかないと、何となく1年経ってしまうことになりかねない。この点、どのように考えたらよいか。

(原沢自治振興課長)

地域協議会には、まず審議会という位置づけがある。市が地域の施策を進める場合、地域の意見をお聞きするという意味で地域協議会に投げかけを行い、答申されたものを施策に活かしていく。

また、協議会は市長に対し自ら意見を言うこともできる。その場合、長期的なまちづくりを見据えたなかで地域の課題を議論いただき、地域全体という視野から意見や提言をお願いしたい。

(委員)

協議会の役割として、「市長の諮問に対して答申する」・「市長に意見を言うことができる」・「まちづくりの調査研究をする」とある。まちづくりの調査研究は、今回の諮問のあとに行うことになるのか。

(原沢自治振興課長)

次回の協議会には、市からの諮問が行われる予定なので、当面はそれについて審議していただくことになる。諮問等がない場合に、協議会が「まちづくりの研究」等の討議する内容を決めていただきたい。あくまでもこの協議会は皆さんの主動と言う形で進めていきたい。

(委員)

協議会で審議する内容は非常に多岐に渡るので、具体的な会議内容を事前に詳しくお知らせいただきたい。

(委員)

大切な会議ですから、月1回ではなくて、必要となれば直ちに会を招集し、審議して提言していけばよい。

(原沢自治振興課長)

月1回程度ということになっているが、集中的に審議が必要であれば、月2回という場合もある。これに伴う委員に対する予算面(報酬)で、調整が必要になる。

(委員)

建設計画の真田地域整備方針には、すばらしい構想が載っている。その内容の具体化や財政的な裏づけを考えながら、今後どのように協議会で討議していけばよいのか、話し合っておく必要がある。

上田市の一体感に関わってくる交通網整備については、循環バスの運行等を審議していただきたい。また、旧真田町からの図書館建設問題については、合併後、どのようにになっているのか住民が心配している。どうゆう状況になっているのかお聞きしたい。

(小市センター長)

先程から審議をお聞きするなかで、協議会の進め方と任務については、まだしっかり馴染んでいない部分があると思う。

市の当面の課題は、平成19年度中に総合計画を策定し、これに基づく施策を早期に展開するという事。そのための答申を協議会からいただきたいと先ほどよりお願いしている。その際、建設計画にある地域別整備方針(真田地域)をベースに委員の皆さんから、総合計画に対するご意見をいただき、市長に答

申していくスタイルが一番良いのではと考えている。ただ、現在は諮問がされていないので、審議の方法については今後、会長さんを中心に効率的に審議できるよう諮問内容をみなしながらご検討いただきたい。

図書館については、建設計画に丸子・武石でも類似施設の整備計画がある。新市に同じような施設をいくつも建設することは、新市全体の発展という意味でよいとは言えない。本館を中心として真田地域にはどんな図書館を整備していったらよいのかは、広い地域を視野にいれて検討していく必要があるため、新市全体の図書館整備計画を現在策定してところです。

(清水会長)

他に質疑がありますか。

(委員)

今回の合併は、旧市町村がこの新市建設計画を認め合ったなかで成立したものと考える。特に建設計画のなかで、「新市の施策」が重要で、この内容をしっかり協議していかないと真田地域が他の地域より遅れてしまう。新しい分権自治機能(地域自治センター)のこと・「市長お気軽ミーティング」や懇談会でも必ず取り上げられる国道144号バイパス(上野バイパス)のことを協議会は取り上げていくべきである。

(清水会長)

他になければ、次に進みたいと思います。

多くの委員は各団体の推薦によりこの協議会に参加されているということなので、前回に提案のあったように、各団体の課題について伺いたいと思います。どうしてもという方があれば、発言してください。

無いようですので、こちらから順番にお願いします。

(委員)

子どもたちを「地域で育てる」ことが大切であるとよく聞く。近所付き合いの希薄が少年犯罪に結びついていると言われていたなかで、子どもたちを巻き込んだ公民館活動が有効ではないか。また公民館活動と学校活動の連携がさらに活発になるような施策が必要ではないか。

(委員)

真田町商工会について、前県知事による1市町村1経済団体の原則により、来年4月1日までに商工会が合併しない場合に、補助金が80パーセントカットされることになっていた。8月に新知事が誕生して平成19年から平成21年までは、平成18年度の85パーセント補助に施策が変更されたことにより、当商工会は運営を継続できる見込みとなった。商工会と商工会議所の合併を視野にいれた法律の整備が必要ではないか。

(委員)

住みよい地域づくりの基本は地域コミュニティの見直しと活性化だと思う。少子高齢化が進むなかで、地域内の世代間交流を活発にして、他の地域に負けない地域コミュニティをつくるのが大切。36区(自治会)の活動を見直し、手を加えていくことが必要であり、今までと同じでは、この地域は上田市の周辺部になってしまう。ソフト面で他の地域に勝る、斬新な考えや

ユニークなアイデアを出してくことこそ、これからの真田地域が進んでいく基本だと思う。

(委員)

ゴミ処理は、観光地において非常に重要な問題となっている。有料ゴミの減量化、また、空き缶などを資金化するという考えのもと、環境問題に取り組んでいきたい。

高速情報通信基盤の整備について、菅平に関しては光ファイバーケーブルが引かれていないので情報の伝達が他地域より遅れている。

学校教育関係として、少子化により、菅平小中学校が抱えている複式学級、廃校といった問題に対して、何か施策がとれないのか。

観光地の看板が統一されていることは、観光面で訪れる人に対して非常に有効ではないか。

(委員)

真田地域に農業後継者グループは、菅平高原に黒土会、長・傍陽・本原地区に青菜会の二つがある。私は4年前に農業に従事したのですが、菅平地域以外では、それまでの12年間、新規就労者がなかったといえます。これから就労するといった話も聞こえてきません。建設計画には「魅力ある農業の推進」とあるので、農業後継者問題等、農業について協議いただきたい。

(委員)

「子育て支援センター」などが開設され、子どもを育てる段階は、進んできていると思う。先日の市産院の存続問題にあるよう、全国的な産婦人科・小児科医院の不足により、安心して子どもを生めない状況を考えていただきたい。

お年寄りが増え、介護保険についてもお金がかかると聞いている。介護保険を使わないための「健康づくり」がこれから大切になると思うので、それにはある程度、健康づくりをするための社会的施設の整備が必要ではないか。

(委員)

高校通学のバス代が高いので自転車で通学する子どもが多い。通学路となる国道144号線の伊勢山付近が非常に危ないと聞いている。循環バスやスクールバスを考えてもらいたい。

世間では、いじめによる自殺・青少年の凶悪犯罪等が多発しているなかで、幸い真田中学校では先生方のご努力により今のところ特に問題がない。地域一体となって、この状況を維持していけるよう青少年育成のことを協議会で考えていただきたい。

真田中学校の部活動(スポーツ)が弱い。生徒数が少ないこともあるが、他地域を参考にしながら、小学生のスポーツ教室の充実を望む。

(委員)

地域が活きるということ考えたとき、ポイントは「子ども」と「お年寄り」ではないか。

「菅平高原」の名前をさらにブランド化したいと日頃から考えている。

(委員)

協議会は、地域として緊急的なことから取り組んでいく必要がある。

新市の一体感を早期に実現させるうえで、新市の交通の便に着目する。建設計画にも「上小30分交通圏構想」があり、当地域としては、国道144号の

整備・改修（上野バイパスの建設も含め）が第一に必要ではないかと考える。上野バイパスの建設工事は神科小学校まで完了しているが、その先についての青写真は無いと聞いている。自転車通学の生徒にとっても144号の伊勢山付近が非常に危険な箇所とされており、国道144号の整備・改修を地域全体の最も重要な課題として総合計画の諮問に対する答申に盛り込んでいただきたい。

（清水会長）

みなさんからいただいた意見を真田地域の意見として答申に盛り込んでいければと思います。残った皆さんには次回にご意見をいただきたいと思います。次回の会議について、事務局からお願いします。

（塚田係長）

次回の協議会については、総合計画の諮問について討議いただく予定です。ただ、現在のところ諮問がいつになるのか申し上げます。諮問があった時点で状況をみながら、会長・副会長と開催日時決定して、今回と同じように通知します。

（清水会長）

他に事務局からありますか。無いようですのでこれで第2回の協議会を終了いたします。